

地域特性を活かした「鯖江型の取り組み」

《スポーツ施設、総合型地域スポーツクラブなど、充実したスポーツ環境の有効活用》

鯖江市には、総合体育館やスポーツ交流館などの公共スポーツ施設や公民館併設体育館などの屋内施設をはじめとして、小・中学校の体育館では開放学校が行われるなど、スポーツ環境は大変充実しています。

市民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができるように、総合体育館やスポーツ交流館などの公共スポーツ施設や公民館併設体育館などの恵まれた施設の有効活用を目指します。

総合型地域スポーツクラブについては、更なる活動内容の充実を図り、スポーツの底辺拡大に努めます。

さらに「新しい公共」による、地域住民主体のコミュニティ拠点の形成を図っていきます。



特徴的な取り組み

- ・開放学校、公民館併設体育館の各種スポーツ団体への開放など、共同利用の促進
- ・開放学校、公民館併設体育館における登録団体や利用手続きの見直し
- ・未利用時間帯における施設の有効活用
- ・性別や各年齢層のニーズに応じたスポーツ教室などの活動内容の見直し・充実
- ・「新しい公共」を担うコミュニティ拠点としての総合型地域スポーツクラブの充実・発展（財政面での支援、NPO法人など法人格取得への支援 など）

《全国トップレベルの子どもの体力の維持・向上》

鯖江市の子どもの体力は、全国でもトップレベルにあります。スポーツをする子、しない子の体力格差、いわゆる「二極化」が進んでおり、年齢が高くなるほど個人差が広がる傾向にあります。このため、学校教育での体育活動はもとより、家庭、地域、学校が連携し、遊びやスポーツに親しむことのできるスポーツ環境づくりを積極的に進めます。更に、子どもの体力づくりに対する市民の意識の向上の啓発を進めます。



特徴的な取り組み

- ・学校と総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団など各種スポーツ団体との連携（学校と地域で活動できる指導者の養成・確保など）
- ・スポーツ少年団の活動内容の充実、各競技団体間の連携強化
- ・総合型地域スポーツクラブの小中学生向け活動内容の見直し・充実
- ・放課後児童クラブにおける運動やスポーツに親しむ機会の提供

《健康・長寿を目指した生涯スポーツの推進・展開》

鯖江市は高齢者全体に対する要介護認定を受けている割合が県内9市で最も低く、元気な高齢者が多いといえますが、人口は今後減少に転じ、平成47年には老年人口の割合が30%を超えると予測されています。

今後とも、高齢者のみならず、性別、年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民がその自発性のもと、各々の興味・関心、適性などに応じて、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整備し、「健康と長寿の推進」に取り組みます。



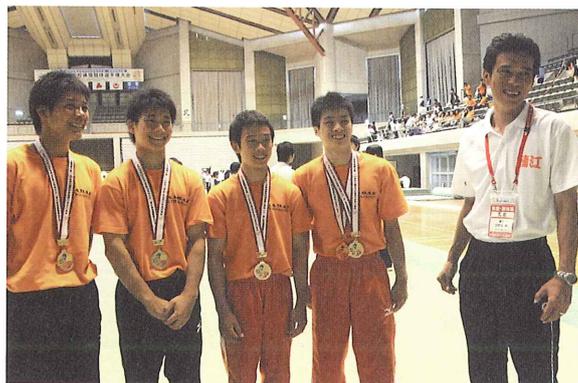
特徴的な取り組み

- ・鯖江市民スポーツふれあい事業の拡大・充実
- ・鯖江市民体育大会の見直し・充実
- ・鯖江市生涯学習スポーツ人材バンクの普及・活用
- ・障がいのある人も参加しやすいメニューへの見直し（スポーツ大会やイベント など）

《体操・駅伝の振興で育むスポーツのまちづくり》

鯖江市は二度にわたる世界大会など「体操のまち鯖江」として知られており、近年は小中学校、および高校を中心として駅伝大会でも好成績を収め、全国大会にも出場しています。

今後とも、「体操のまち」「駅伝のまち」として全国に向けたPRを強化するとともに、鯖江市を代表するスポーツとして、市民意識の高揚とスポーツのイメージアップを図り、市民一人ひとりが誇りをもって支援していく体制を構築します。また、より一層の競技力向上のための支援を進めます。



特徴的な取り組み

- ・体操、駅伝などの市内小中学校、高校の競技力向上への支援
- ・市民一人ひとりが参加できる支援体制の構築
- ・各種媒体を通じた「体操のまち」「駅伝のまち」としての全国的なPRの強化
- ・鯖江市を代表するスポーツとしての市民への周知徹底、自発的な支援活動の促進